

教育プログラムの名称 : 児童教育学
授与する学位の名称 : 学士（教育学）

【教育目標】

山形大学及び地域教育文化学部の教育目標を踏まえ、児童教育コース（教育学）では、確かな学習指導・生徒指導の力と地域ぐるみで子どもの成長を支えるネットワークづくりに関わる幅広い知識・技能を分野横断的に教授して、地域の人々とともに、チーム学校の一員として地域の教育を支え、課題の解決に取り組む実践的な人材の育成を目的としています。

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

山形大学及び地域教育文化学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、児童教育コースの各プログラムでは基盤共通教育及び学部の専門教育を通じて、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と社会性

- （１） 教育に対する使命感と情熱、問題意識を持ち、積極的に学び続けることができる。
- （２） 教師の責務の重大さに対する自覚に基づき、高い倫理観と責任感を伴った行動ができる。
- （３） 多様な意見を引き出しながら目的の共有を図り、取りまとめるファシリテーターとして地域の教育課題の解決に取り組むことができる。

2. 幅広い教養と汎用的技能

- （１） 学校教育及び学校と地域の連携についての基本的知識がある。
- （２） 教科間連携、幼小中高連携、インクルーシブ教育を意識した指導力がある。
- （３） グローバルな課題とのつながりにおいて地域課題を捉えた教材開発力を身に付けている。
- （４） 子どもの成長と学校教育を支える様々な人々や組織との連携を図るためのコミュニケーション能力がある。

3. 専門分野の知識と技能

- （１） 国や地域の教育政策の動向に基づき、地域の教育を支えるために必要な専門的知識や技能を身に付けている。
- （２） 地域の教育を支えるために必要な専門的知識を基盤とし、さらに「チーム学校の一員としての教員」に必要とされる知識や技能を活用しながら教育課題の解決に取り組むことができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学及び地域教育文化学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、児童教育コースでは、学生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1. 教育課程の編成・実施等

- (1) 基盤共通教育においては、1年次を中心に、「導入科目」、「基幹科目」、「教養科目」、「共通科目」をバランスよく履修し、広い視野・教養を得る。また、「共通科目」では、3年一貫教育としてコミュニケーション・スキル1（英語）を履修し、英語活用能力の向上を促す。
- (2) 学部専門教育においては、専門教育科目を、「中心科目」、「基礎科目」、「専門科目」、「発展科目」の4つのカテゴリーに分類し、体系的・段階的に学ぶことができるように配置する。
- (3) 「中心科目」は、学部共通科目として位置づけ、地域貢献・地域創生を実践するための基本となる科目群と、専門教育で学んでいる知識・技能を地域課題の解決を目指して総合的に活用し企画・運営・実行していく実践演習群の「フィールドプロジェクト」とで編成する。
- (4) 基盤共通科目・専門教育科目の一部を「自由選択科目」として配置する。
- (5) 「児童教育コース」に2つのプログラムを配置する。

○小学校教育プログラム：小学校教育のスペシャリストの養成。小一種免許状（必須）、中・高一種免許状（国語、社会、数学、理科、英語。高校社会は地歴）、幼一種免許状及び特別支援一種免許状が取得可。

○チャレンジプログラム：教職大学院進学を前提にした6年一貫教育。小一種免許状（必須）。

2. 教育方法

- (1) 基礎的かつ包括的な知識を習得する科目群と実践的かつ基礎技術を習得する科目群とを相互補完的に履修させ、知の実践力の育成を促す。
- (2) 主体的な課題発見・解決能力を培うために、PBL型授業を学年進行に伴って拡充する。
- (3) 人間性及び社会性の涵養を促進するために、協働による参加型・対話型授業を初年次から展開する。

3. 教育評価

- (1) 学生自身による到達度の検証と自主的・自律的改善を可能にするような具体的な評価基準を策定し、学習成果を評価する。
- (2) 地域教育の課題解決のために実践力を総合的に活用し、企画・運営・実行する主体性・自律性を評価する。

【入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

地域教育文化学部は、地域における教育及び健康文化・芸術文化を構成する諸科学の教育・研究を通じて幅広い視野と探究心、豊かな人間性に基づいた責任感と倫理観を持ち、独創性と柔軟性をもって地域課題に取り組み、地域社会の自律的な発展に寄与する実践的な人材の養成を目的とします。

地域教育文化学部の求める学生像及び入学者選抜の基本方針は以下のとおりです。

1. 求める学生像（3つのC）

Challenge : 広い視野に立って、新しいことに挑戦しようとする意欲のある人

Cooperation : 課題に積極的に取り組む行動力、他者を受け入れる包容力、社会性とコミュニケーション能力を備えている人

Contribution : 今日的な社会課題とその課題解決に強い関心があり、地域文化の活性化に貢献できる職業に就きたい意欲・情熱を持っている人

2. 入学者選抜の基本方針

地域教育文化学部は、地域における教育及び健康文化・芸術文化を構成する諸科学について学び、広い視野と探究心、豊かな人間性に基づいた責任感と倫理観をもって地域の課題に取り組み、地域社会の自律的な発展に寄与する意欲をもった学生を受け入れます。

以上のような観点から、地域教育文化学科の児童教育コースでは、具体的に次のような入学者選抜を実施します。

地域教育文化学科

<児童教育コース>

本コースでは、高等学校までの基礎的な学力・実技能力を身に付けて、学校・地域・家庭の連携と相互信頼関係の必要性を理解し、今日的な社会の要請に応える高度な専門性を有する小学校教員を目指す意欲をもった学生を受け入れます。また、小学校教員に加えて、幼児や障がいのある子どもへの適切な指導を行うことのできる教員や、中学校5教科（国語、社会、数学、理科、英語）のいずれかの専門的知識を有する教員になることを希望する学生を受け入れます。

地域教育文化学科・児童教育コースの求める学生像及び入学者選抜方法は以下のとおりです。

◆求める学生像

- ・小学校教員を目指す人
- ・小学校教員免許に加えて、幼稚園、特別支援学校、中学校・高等学校5教科（国語、社会、数学、理科、英語、高等学校社会は地歴）のいずれかの免許取得を目指す人
- ・各教科にわたる基礎的な知識と探究心を備えている人
- ・地域社会における教育的支援・援助に対する意欲のある教員を目指す人
- ・子どもを受けとめられる包容力や寛容な心、他者とのコミュニケーション能力や協調性を有する人

◆入学者選抜方法

(1) 一般入試（前期日程）

大学入試センター試験では、5教科6科目又は5教科7科目の試験を課し、高校時代の基礎的な学力を総合的に評価します。個別学力検査としては、英語及び小論文を課します。英語では、本コースの修学に必要な基礎的な学力を検査します。小論文では、主に資料や文章を与え、基礎的な学力に加えて、内容の理解力と論理的思考力・表現力を総合的に評価します。

(2) 一般入試（後期日程）

大学入試センター試験では、5教科6科目又は5教科7科目の試験を課し、高校時代の基礎的な学力を総合的に評価します。個別学力検査としては、面接により、地域社会における教育・人間・文化に対する問題意識とその表現力や、本コース志望の動機と勉強意欲や教育に関する幅広い興味・関心等について総合的に評価します。

(3) 推薦入試Ⅰ

大学入試センター試験を課さず、推薦書、調査書、志望理由書の書類の他、面接（口頭試問を含みます。）により、地域社会における教育・人間・文化に対する問題意識とその表現力や、コースに関わる基礎的能力（教科に関わる基礎的な学力、論理的思考力、読解力、表現力及びコミュニケーション能力など）、学習への意欲、関心及び適性を総合的に評価します。

(4) 社会人入試

大学入試センター試験を課さず、面接（口頭試問を含みます。）により、地域貢献に対する姿勢や、新たな教育的課題に挑戦しようとする意欲、関心、積極性、コミュニケーション能力とともにコースに関わる適性や、コースに関わる基礎的な能力等について評価し、可否を判定します。

(5) 私費外国人留学生入試

日本の社会に強い関心があり、地域教育や新たな教育的課題に挑戦しようとする意欲、関心、積極性、コミュニケーション能力を持っている人を選抜するため、日本留学試験と面接を課し、基礎的な学力、日本語運用能力、コースに関わる基礎的な能力等を総合的に評価します。